

## 鶴岡市でも「受診手遅れ死亡」 国保税払えず無保険状態

全日本民主医療機関連合会（全日本民医連）が3月31日に公表した調査によると、昨年「経済的事由による手遅れ死亡事例」は28都道府県で58人にのぼります。そのうち、鶴岡市の事例が1件含まれています（公表資料には所在地は記載なし）。

### 国保証留め置き

美原町に住む60代の男性について、民生委員から医療生協の医療相談室に相談が持ち込まれ、3カ月十分に食事しておらず、動けな

いと知人から相談。独居で携帯電話も止められ所持金は100円。

国保料を滞納し、保険証は有効期間が前年9月で期限切れ、国保証は役所に留め置かれていた。

何年も受診しておらず、協立病院が無料低額診療を行っていることを知っている民生委員の勧めで、昨年4月18日に協立病院に入院

しかし、腹腔内の多数の腫瘍を認め、手遅れ状態と判明し、入院19日目の5月6日に死亡したものです。市では民生委員と包

括支援センターからの連絡で、入院直前に患者宅を訪問し生活保護を受けしたが、認定が出たのは死亡後だった。市では遺体の引き取りは困難ということで、病院が元妻を探し当て、遺体を引き取って貰ったという事例です。

### 国保税引き下げよ

国保税が払えずに保険証が手元になかったり、窓口での支払いが困難だったり、お金の有無が命の危機に直結していることは、あまりに深刻です。

国保会計に市の繰入金を増やし、高すぎる国保税を引き下げることが緊急に必要です。

「読書のまち鶴岡」をすすめる会設立総会。「おはなし玉手箱」エプロンシアター「ちかたらるっ」発表（23日）



## 加藤興治氏「木造建築 伝承の匠」 関係者や友人等で受賞祝賀会



加藤興治氏の山形県「木造建築 伝承の匠」知事表彰受賞を祝つた会（掘口王男実行委員会）が22日、ベルナルル鶴岡で開催され、建設労働組合関係者や友人ら75名が出席してお祝いされました。

加藤興治氏（68歳・箕柘新田）は昨年12月1日、県内4人の一人として表彰を受け、木造建築のすぐれた技能と4人の弟子の育成、建設労働組合連合会の役員としての功績が大きく評価されました。



## 庄内地方の凧文化⑨

### 戦後の県内凧事情（庄内 二）

鈴木隆（小中島）

戦前の庄内の凧揚げは、平野部では子ども達の冬の遊びとして、その集落のガキ大将を中心とする子ども同士、あるいは親や村の大人から手伝わってもらいながら、大人も一緒にな

立川人材センター凧の会（会長・原田正一、会員13名）

って楽しんだ凧揚げだった。しかし、昭和40年代以降の凧が復活した頃

の状況は、個人の遊びとしての凧揚げはすっかり影を潜め、地域の公民館や凧保存会、または学校行事の一環として行われるようになった。

このような推移を庄内の平野部について記してみよう。

八栄島地区と凧 私の住んでいる八栄島は、旧藤島町の中でも非常に凧揚げが盛んな所。昭和40年代中頃、農民写真家・鈴木昭男氏（八色木・昭2生・昭62没）を中心に凧作りのベテラン10数名が、子ども達に凧作りを長く指導した。地区内には凧絵の専門家・斎藤工造氏（八色木・故人）がいたし、凧揚げ名人・太田辰吉氏（小中島・故人）がいるなど、凧通が多かったため、子ども達と凧との付き合いは長く続いた。



本間源吾氏の庄内凧絵（三川町）

地区の凧名人、本間源吾氏（故人）が創作した「庄内凧」を郷土の伝統凧として継承しようと、5年ほど前に保存会を結成した。

会では、毎年行われる東郷小学校の凧揚げ大会の指導や他の凧団体との交流を行っている。



5畳の大凧揚げ（八栄島・昭和57年）



# ある演奏家が受けた「おもてなし」

新町 齋藤留治

中国の伝統楽器「二胡」(絃が2本しかない日本の琵琶に似ている)の演奏家のA女史は中国遼寧省の大連生まれ。大連は日本にも広く知られている都市で美しく清潔な街と言われている。

彼女の専門は心臓外科医。毎日救急車で運ばれてくる一分一秒を争う「死線」との勝負を争う世界で働いていたある時、日本の大学(広島大学大学院)へ

客員研究員として派遣されるチャンスが巡ってきたそうである。家庭を持つて子どももいる彼女は、中国に残るかどうか迷ったそうだが、そうそうないチャンスと決断して来日した。

祖国に残してきた家族の事も心配だし、言葉も判らないというストレスに悩まされる日々を過ごしていたある時、「中国文化とのふれあい」という行事に誘われた。

もともと彼女は音楽の才能にも恵まれても

いて、小さい頃から色々な楽器を学んでいたそうであった。

中でもプロ級の腕前を持つていた二胡という楽器を、その会場でチャイナ服を着て演奏したところ拍手喝さい、たちまち「彼女は二胡の名手」という噂が広がり、度々演奏会に招かれるようになったそうである。

心臓外科医と二胡演奏家という2つの顔を持つようになった彼女。

ある時、「Mライオンズクラブ設立記念大会」での演奏が舞い込み出かけたが、会場には立派な服装をした紳士達ばかり。緊張をしながら一曲を弾いた後、自己紹介を兼ねて挨拶をさせてもらった。

秀才でも簡単に外国語をマスター出来ないのは当たり前で、「今日は立派な偉い人ばかり」と言おうとしたそうだが

が、言葉が出なく口から出たのは「今日は偉いバカ(方)ばかりの会に(で)演奏するチャンスをいただきありがとうございます(ございまして)」と口走ってしまったそうである。

会場は一瞬静まり返った後大笑。演奏が終わり、祝賀会に移つての副会長の乾杯の発声は、「私はただ今紹介をいただいたバカの会の〇〇です」で宴会が始まったそうです。

これは優しい「おもてなし」。

優しくないのはアベ内閣の、語るに落ちる与党のセンセイ方。センセイ方はアベ晋三から報酬を得ているとも思っているのだろうか。(彼女は現在も演奏活動中)



## 教育に関する26条の新設条項を危惧する

―あらためて憲法を学ぶ 青山崇

2017とくほう・特報 戦争は教室から始まる。軍国少女・少年を再びつくってはいけない 教育勅語“教材否定せず” 戦争体験者ら批判 (しんぶん赤旗 4月18日付)



自民党改憲案は、教育に関する26条に「国は、教育が国の未来を切り拓く上で欠くことのできないものであることに鑑み、教育環境の整備に努めなければならない」という3項を新設した。「教育環境の整備」に危惧を感じる。憲案Q&A」は「具体的に、教育関係の施

設整備や私学助成などについて国が積極的な施策を講ずること」としている。そうであるならば「環境の整備」でなく「施設の整備」としたほうがよいであろう。「環境」という言葉は、施設や条件より広い意味で、学校等の教育機関が国旗(日の丸)の掲揚・敬礼や国歌(君が代)斉唱することなども入る可能性があり、それらが行われている教育機関は「教育環境が整備」されていると



### 忘れちゃ困る

皆さんご存知の歌手

・千昌夫さんの歌に

♪日本人なら忘れちゃ困る―という歌詞がある。おふくろの味・味噌汁を唄ったものだが、

▲本当に忘れちゃ困るもっと大事なことがあるんだ。いま国会で審議されているテロを口実の「共謀罪法案」のことです。先にも書いたのですが、3回も国民の反対でダメになった法案です。

▲なぜダメを喰らったのか。それは、戦前の「治安維持法」と同じだからなんです。国会で、「一般市民には関係がありません」と言っているが、治安維持法の時も国会審議ではそう言っていたんですよ。かつてそれがどうだったかを思い出してほしいんですが、

され、そうでない教育機関は「教育環境が整備」と称して、違憲として国家が強制できる仕組みができてしまうという危惧である。平和憲法の下で生きてきた者にとって、戦時中のようなことはもう起こるまいと完璧に思っていた。それなのに日の丸・君が代が復活し、今や教育勅語も復活しそうな安倍政権の暴走政治である。だから危惧はますます高まるばかりである。

り、そんな小さな声も聞き逃さない社会にしていたでしょう。盗聴法が出来た・秘密保護法が出来た・戦争が出来る法律も出来た。残るは、小さな反対の声を、戦争がしたい方がたは欲しいんです。

▲この法律ができたなら、自由にものが言えない・密告は奨励される。あんな暗黒時代はもういやだと、3回もツブシテ来たんです。

▲あの当時、特高(特別高等警察)という者がハバをきかし、人々の言葉尻にまで気をまわし、シヨッピーテは竹刀を使い、集団で殴った・ナンテ話は、何処にでもあったと聞く。ものが言えない特高の時代は、近頃はNHKの朝ドラにも見えるようになったがネ。恐ろしい時代だったでしょ。こんな法律は許しちゃなんねー。なーみんな

(石川)